

令和7年度 コミュニティ・スクール推進校事業 会議録

会議の名称	小学校学校運営協議会		
開催日時・公開等	令和8年 2月19日 (木)		
会議の公開等	公開		(非公開理由)
開催事前告知	令和8年 1月30日 (金)		ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
開催後議事録等の周知	令和8年 2月20日 (金)		ブログや校長室だより等で広く地域に周知を行った
出席者	学校運営協議会 会長(鈴木 康寛)、副会長(稻岡 真弓)、出川 由貴 校長 友田 充孝、教頭 中野 洋子、首席 CS担当 羽田野 勝治		
欠席者	0		
案件名	①令和7年度 学校教育自己診断結果について ②学校応援ボランティア「さだレンジャー」活動 振り返り ③その他 次年度に向けて		
提出された資料等の名称	①令和7年度 学校教育自己診断結果について		

会議内容

会議録要旨:主体性を育む学校づくりと地域連携のあり方

今回の会議では、学校教育自己診断結果をもとに、文科省の指針である「主体性」の育成に向けて、実社会とつながった学習プロジェクトや、学校応援ボランティア(さだレンジャー)との連携、今後に向けた展望について話し合った。

1.「主体性」を育む自学自習と課題解決型学習・探究学習

自分で計画を立て、逆算して学ぶ力(中高で求められる力)を小学校段階から意識。単なる「一問一答」やドリル学習だけでなく、文章題を読み解く力や、実社会で必要な「考える力」を重視する。

・「必要感」のある学び:

プロジェクト学習(例:5年生の商品開発)を通じ、デザイナーを招いてパッケージを修正したり、家でキャッチフレーズを考えたりと、「調べたくなる・やりたくなる」仕掛けが家庭学習(自学自習)の質を高めるヒントとなる。

・キャリア教育の視点:理系離れや技術職不足の現状を踏まえ、「好きを極める」ことの重要性や、社会で求められる人材像を共有。

2.実社会とリンクした具体的なチャレンジ事例 今年度、子どもたちが主体となり、自分たちの活動を社会へ発信・還元する動きが加速。

・1~6年生や支援学級(ひまわり)全学年がチャレンジした探究学習

・合唱部の活動:NHKコンクールへの挑戦、児童会役員による学校かくれんぼ

・商品開発とPR:大阪の伝統野菜「大阪穂谷産の大坂黒菜」を使ったピザやチップスの開発。市長に対し、子どもが自ら自分たちの活動をプレゼンする場面も。

3.地域連携の充実:「さだレンジャー」ボランティア力

・高い地域密着度:PTA加入率99%、親子3代同校出身という層も厚く、地域が学校を支える基盤がしっかりとしている。

・さだレンジャー(ボランティア):延べ200人以上に参加いただいた。「できる人が、できる時に」という緩やかなスタンスで、トイレ清掃や図書ボランティア、給食配膳補助、販売リハーサルでのアドバイザー(消費者代表)として活躍。

・安全と持続可能性:市役所の「市民広域活動保険」等を活用し、ボランティアが安心して参加できる持続可能なサイクルを構築。

4.委員より

形式にこだわらないゆるやかな交流があるとよいのでは。

委員さんや地域の方と教職員による堅苦しい会議ではなく、「大人のクラス会議」のような顔の見える関係づくりがさればと提案。

偶発的な繋がりの創出:たとえば掃除などの日常活動を通じて、地域住民同士が自然に対話できる環境

今後もさだ小学校の活躍が楽しみ。

会議後、授業参観実施。